

少林寺たより 澤龍

平成27年
正月号

【発行所】
澤龍山少林寺
〒709-4606
岡山県津山市
中北上1150
TEL
0868-57-2303
【発行人】
清涼晃輝
TEL(携帯)
080-6351-9686
E-mail:
seiryo-k@mx1.
tvt.ne.jp

謹賀新年

清涼 晃輝

旧年中は、格別のご厚情を賜り深謝申し上げます。

本年も皆様のご多幸と被災地復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、新年を迎えました。日本には二つの正月があります。それは、太陽暦と太陰暦の正月です。

古来より日本の暦は、月の動きを主として太陽のリズムを含んだ太陰暦（旧暦・月暦）でした。しかし、明治六年より太陽暦（新暦）が採用され、太陰暦が今忘れ去られようとしています。

太陰暦は、祭祀や農耕の諸行事が天候や自然と生活に密接な関係でした。しかし、古来より営まれていた行事を太陽暦の中に置き換えることは行事の真実味を欠き、様々な混乱が起き、

伝統文化や祭祀の衰退、地域社会の崩壊に影響を及ぼしていないでしょうか。

例えば、太陽暦の正月を迎え「迎春」といいながら春を感じる事はありませんが、太陰暦の正月には春を感じ始めます。

二十四節気が季節の節目であるように、先人たちは、太陰暦の月を中心に農耕を

お月様を拝む

営み、祭りが行なわれ生活を営んでいました。

「一日」といいますが、これは太陰暦の「朔日」からきた言葉です。月が立つ日が新月の朔日（一日）なのです。朔日（一日）から月の再生が始まり、少しずつ月が私たちに姿を見せ、三日月から、やがて満

月になり、そして少しずつ私たちから姿を消していき、晦日（毎月の最終日）になり、これを繰り返します。月は毎月平均二十九・五日かけて地球を一周します。

元旦に、新しく汲む水を「若水」といいます。若返りの水を意味します。東大寺のお水取りが有名なように、新年に新しい水を汲んで祝う行事は全国に残っています。

この若水を汲んで湯をわかすことを「福沸かし」といいます。また、神前に供えた餅を七日粥や十五日粥、あるいは雑煮などに入れて食べることも福沸かしといえます。水道水であっても、元日の朝に湯を沸かすときくらいは、「福沸かし」といい生命の水の恵み

に思いをよせたいものです。「兎、兎なみにて跳ねる十五夜お月さん見て跳ねる」そんな歌を子供の頃口ずさみ、月のうすぐらい影は「月の中で兎が餅をついている姿だよ」と教えられた方も多いと思います。

仏教説話の『ジャータカ』に由来して『今昔物語集』巻五に『月の兎』の物語があります。

昔、兎と狐と猿の三匹がまことの信心から菩薩道を修行していました。それを見た帝釈天が、彼らの本心を試すため老人に化けました。

三匹は、その老人に出会います。老人は「お腹がすいて動けないので、何か食べ物をお願い下さい。」と言います。三匹は老人のために食べ物を集めに出かけました。猿は木の実を取り、狐は川原から魚をくわえ老人に捧げました。しかし、兎は頑張ったが何も持たずくることが出来ませんでした。

老人は何も持たず兎を見ると「お前は他の二匹と心が違うな」と言いました。すると、兎は、猿に柴を刈ってきてくれ、狐にそれを焚いてくれと頼みました。兎は「どうぞ私を食べて下さい」と言い、燃える火の中に身を投じ老人に捧げました。もとの姿に戻った帝釈天は、そんな兎を哀れみ、兎を月の中に移してまつりました。

兎の捨て身の行為が、慈悲行を教えてくれます。先人たちの生活に月は深い関わりをもっていました。

現代において、全て太陰暦で営むことは困難ですが、太陰暦から、先人の智慧を学び社会や人生に活かせると思います。そこに現代人が忘れかけた豊かな人生の送り方のヒントがあるように思えてなりません。

本年の旧暦正月は、新暦二月十九日（木）です。一緒に御祝い致しますよう。

お月さま

「月待ち」の楽しさ

甲午の年の2014年は名月が三回あった特別な年でした。それぞれ「中秋の名月」(西暦9月8日)、「十三夜」(10月6日)、「後の十三夜」(11月5日)と呼ばれるものですが、中秋の名月はお寺でも催しが営まれたとのこと、ご住職の歡びに満ちたご報告に接し、感動を共にすることができました。

三回も名月がある機会は生きている間はないものとして観月に臨み、幸い三夜共に月夜に恵まれました。とくに、中秋の名月と171年ぶりの機会となった後の十三夜は、大勢の人びとと共に「月待ち」という伝統的な月

の迎え方をしました。月の出前から待つ姿を現わす月を拝むといった心持の、月が主役の時間のことです。

日の出や日の入りでは皆さん体験がおりかもしれないが、月待ちということばはほとんどの方がご存じないかもしれない。しかし歴史をさかのぼると、日本人でこの体験のない人はいないといえるような普通の風習でした。信仰的な意味があった風習でしたが、今回は月待ちの楽しさということについて綴ってみたいと思います。

地平(水平)で迎える月は、まず色が楽しみです。赤に金が入ったような独特の色合いで出てくることがよくあり、私はとくにその美しさが好きですが、上がるにつれてだいたいや黄色に、そして最後は白へと変わっていくグラデーションの妙は、短時間しか見えていられない太陽とは比較に

なりません。大きさや速さもそうです。大気の状態などによつて巨大な月にビックリすることがあり、あれよあれよと動いていく速度もすごいものです(月の時速は三千キロ)。月齢によつて当然月の形が違います。二十三夜などは半月ほどの下弦の月で真夜中に出てきます。昨年この月を見ようと大勢で月待ちをしたときは、左上側の尖った一点だけが山端からピカッと現われ、みんなを驚かせたものです。

このように月待ちは一回一回違う月との出会いを楽しませます。人びとと待っているとき何より楽しいのは、そのにぎやかさ。晴れなのに地平に雲が横たわってなかなか月を確認できない、というような場面がよくありますが、そんなときは、あれが月ではなにか、とか、いやあちがそうだ、とか、とにかくワイワイガヤガヤなのです。それが

また月を待ち望む精神の高揚をもたらします。中秋のときもそんな月待ちでしたが、二、三人だけが見えたといい、全員は確認できないままでした。しかし、目のいいカメラはしっかり丸い月を捉えていたのでした・・・。(文 志賀勝)



※念願だった志賀勝先生の講演を八月に開催することが出来ました(6頁) 志賀先生素晴らしきをお話しをありがとうございました(住職)

◎「月と季節の暦」

カレンダー発売中です!

◎是非、下記サイトご覧下さい。月の面白さ、暦

の大切さが満載です

仏の智慧に学ぶ

五観の偈

唐代の南山律宗開祖、道宣が著した『四分律行事鈔』中の観文を宋代に黄庭堅が僧俗のため約したもの。曹洞宗開祖道元禅師の著作『赴粥飯法』に引用され広く知られるようになります。現在も禅寺では、食前に五観の偈をお唱えします。食事も大事な修行なのです。

【原文】

一には、功の多少を計り彼の来処を量る。
二には、己が徳行の全欠を付て供に応ず。
三には、心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす。
四には、正に良薬を事とするは形枯を療ぜんが為なり。
五には、成道の為の故に今此の食を受く。

【現代語訳】

一、この食事がどのようにして出来たかを考え、自然の恵みと多くの人々の働きを思い感謝致します。
二、自分の行いが、尊い生命と労力で出来た食を頂くに価するものであるか反省し、供養を受けます。
三、心を清浄に保ち、誤まった行いを避けるために、三毒である貪（貪り）瞋（いかり）痴（おろか）の三つの過ちを持たないことを誓います。
四、まさに、食は良き薬であり、身体を養い、健康を得るために頂くのです。
五、仏の道を実践するために、この食事を有り難く頂戴致します。

檀信徒を訪ねて



円宗流庭園・高本総氏

（津山市坪井下）は、戦地から帰郷した戦後、円宗流不老園・杉山秋治郎氏に師事し、庭師の修行に入り技術を習得され独立されます。

高本氏は、六十年余り少林寺の庭師としてご尽力頂いております。少林寺の植木の由来は高本氏に尋ねるとすぐわかります。「これは、元々〇〇さんの家にあったのをここに植えたんです。ここのは、△△さんから貰って植えたんです。こっちは、石段へあったのをここに移したんです。」迂闊に伐る事は出来ません。高本

氏に教えて頂く事ばかりです。少林寺の植木は皆の思い出が込められた草木です。

ある時、こんな話をしました。

「高本さん、上手に木を伐られますけど、コツがあるのですか？」

「和尚さん、そんなものはありませんよ。」

と謙遜される高本氏。きつと、長年植木と向き合つて培われてこられたご経験で、自然に身体が動かれるのでしょうか。

高本氏は、現在満八十六歳の現役です。今は、御子息と森和昭氏夫婦の四人で作業されています。

作業後は、「私も年じやからな。段々頭も脚も動かんようになった。元氣だったらまた来さして下さい。（合掌して）」とがとうございました」と言われます。

黙々と作業されるお姿は、まるで庭を修行の場とされているようです。

（住職合掌）



少林寺ホームページ更新中
<http://www.shorinzenji.com/>



曹洞宗澤龍山少林寺フェイスブック
<https://www.facebook.com/shorinzenji>



晃輝和尚のブログ「覚禅堂」
<http://ameblo.jp/seiry-koki/>

●ご意見ご感想、次回の少林寺たより「澤龍」投稿募集中です！
（歴史・俳句・川柳・短歌・豆知識・活動等ジャンルは問いません）

平成二十六年 主な行事報告

●総供養 そうくよう

六月十五日、恒例のご先祖様の供養会を開催。この度は、岩屋出身の日本民話の会長、立石憲利氏に民話「りゅうくれ、もくとくれ」「ミミズは何故干からびて死ぬのか」「かえるぼち」「ももたろう」「こりあなんぼなら?」「鳴き女」をして頂きました。へえとうなずく人、笑う人、みんなで楽しい時を過ごしました。「ミミズは何故干からびて死ぬのか」をご紹介します。



▼昔な。動物いうな。あな。何でも自由にも食べることが出来たんじゃない。みんなでも美味いもんが食いたかろう。動物も美味しいもの、美味しいもの、美味しいもの、みんな食べるもんじゃから段々段々美味いもんが少なくなっていた。そうしたら動物

同士が食べ物で喧嘩をするようになったんじゃない。▼それを見たお釈迦様が動物が食べ物で喧嘩するのは良くない。其々喧嘩をしながらに食べ物を決めてやる。今度の休みの日にお釈迦さんの前に集まれ。そういうフレをだしたんじゃない。その日になったら、動物がみんなお釈迦様の前に集まった。お釈迦様が、お前は何を食え。お前は何を食べ。次から次に決めていったんじゃない。▼馬が行くと、ありや。お前は大きな体をするの。お前のように大きな体をしてとつたら、食うものもようけるから、ようけいある草を食え。ということ、馬は草を食うようになったんじゃない。▼次に牛が行ったら、ありや。お前も馬に負けん程の大きな体をするの。お前も食うものがようけいあるじゃろうから、ようけいある草を食え。だ

けど馬と喧嘩をしたらいけんから、馬は草の上の方を食え。(馬が草を食べるのを見られた事があると思いますけど、葉っぱでとつたら葉っぱをすくようにして食べている。牛は草の下の方を食べる。硬い所を一回食べて胃の中へ入れて、横になつてもう一回口の中へ出して練り出す。反芻動物はそうなんです。)そういうように決めたんじゃない。



▼それから山羊が行くと、お前は牛と馬に比べたら体がこまいから牛や馬が食べた残りの根っ子の方を食え。(山羊が食べるとのを見たと根っ子の方を本当にさらえるようにして食べる)そういうように次から次に食べ物を決めていったんじゃない。▼ミミズが、ふつと眼を覚ますと、もう外が

明るうなつとる。ありや。もうこりや夜が明けたぞ。今から行ったらもう遅れるぞ。外に出たらお天さんが頭の上に昇つとる。こりやいけん。今から行ったら食べるものがうなつてしまふということ、ミミズは顔も洗わずにお釈迦様の前に行つたんじゃない。▼お釈迦様のところに行つたらようけいこと動物が並んどつたから、一番後ろに並んどつたら食べるものがうなつてしまふへんかと思つて、判らんようにそーと列を割つて前の方に入つて知らん顔しておつたんじゃない。▼しばらくしたらミミズの番になった。お釈迦さん、お釈迦さん、私はミミズですけどものうならんもの使わさない。言つたら、お釈迦さんが、ミミズか。お前は欲張りじゃのう。じゃけど望みを叶えてやろう。食うても食うてもものうならんものをやろう。お前は泥を食え。言うたんじやな。▼そうし

たらミミズは、お釈迦さん、もし泥がのうなりそうじやつたらどうしたら宜しいでしようか?お前は欲張りじゃのう。もし泥がなくなると思うたら、夏の土用の最中に道の上に出てお天道様に聞いてみ。▼それから毎日クシャクシャクシャク泥を食べる。だけど、もう泥がのうなるんじゃないか。もう泥がのうなるんじゃないか。心配で心配でしようがない。▼そうじや、お釈迦さんがおっしゃつておつた。夏の土用の最中に道の上に出て、お天道様聞いてみ。夏の土用が来るのを待つて、道の上にはい出して、お天道さん、お天道さん、もう泥がのうなりそうなんですが、次は何を食うたら宜しいでしようか。▼言つたらお天道さんが、ミミズ欲張りめ!お前の様なのは干からびて死んでしまえ!ということ、干からびて死んでるんじゃない。干からびて死んでるミミズは欲張りのミミズなんじやつて。昔こつぷり。

● 孟蘭盆大施食会

八月十八日、毎年恒例の法話とお盆の大法要を約八十名の参列者とともに執り行いました。

法話は、源福寺ご住職 小谷典尚師（倉敷市真備町）が勤められました。御詠歌の孟蘭盆会御和讃の解説をして頂きました。

《孟蘭盆会御和讃》

臉をとじれば在りし日の
面影浮かぶみほとけを
法悦び迎えし孟蘭盆会
いのちの集い有難や

流るる悠久の歲月超えて
仏法に目覚しもろびと
ご先祖まつる孟蘭盆会
ささぐ誠心の御供養

水面に映ゆる灯明に
永き安寧願いこめ
精霊送る孟蘭盆会
尊き法要に仏道を知る



《解説》

臉をとじて今は亡き人の面影を偲ぶと、あり日の姿や声が思い出されずぐ傍にいたような思いがします。ご先祖様は私の命の源です。私に尊い命を下さった方々です。その有り難さを自覚し、命の集いである孟蘭盆会の日を迎えることが出来たら喜びで一杯です。

お釈迦様の教えは悠久の歲月の流れる中でお盆行事となり、ご先祖様がそれぞれお勤めになり、私達へと受け継がれてきました。それは御霊祭りであるとともに、私達が貪りの心を離れる行いの供養でもあります。ご先祖様に報恩の真心をお供えする孟蘭盆会は、命の尊さを知る法会であり、ご

先祖様から脈々と続く永遠の命の流れに目覚める法喜なのです。

孟蘭盆会もアツという間に過ぎ今日はもう送り火の日となりました。夕方になると河川では灯籠流しが行われ灯籠の灯が水面を明るく照らし幻想的な雰囲気をもし出します。流れゆく灯籠に手を合わせ、ご先祖様を思う時感謝の気持ちと共に心の安らぎを感じます。

そして、このような行事において、環境への配慮をするとともに仲良い暮らしをお誓いし、永く世界が平和に暮らせるように願わずにはいられません。



● 禅道場体験

八月二十一日、第三回禅道場体験を参加者九十四名（子供六十三名、大人三十一名）にて開催。読経、坐禅、法話、月のお話し、素麺流し、写経、民話、掃除。一日修行致しました。



民話の語り「いろりばた」



月のお話し：講師 志賀勝氏



●お月見坐禅会



「中秋の名月」九月八日の十九時半より、「お月見坐禅会」坐禅、民話（田村洋子氏）、お月見を参加者

四十名（子供二十一名、大人十九名）にて開催致しました。

子供たちと作ったお団子、すすき、御神酒をお月様に御供え致しました。

静寂な月の明かりに照らされて、みんな背筋を伸ばし、呼吸を整え、心を静め暫くの坐禅。その後、民話を楽しみ、御供え物を頂き、みんなでもとても贅沢な時間を共有し、お月様のお陰を頂きました。



●特派布教講習会

人権学習、教区総会

十月三日、長安寺（津山市西寺町）で東泉寺ご住職関水俊道老師（横浜市）が「布施は人々を救済すること。ボランティアをすること。長生きをする。ストレスは寿命を縮める。人に親切にしてあげると相手が喜んでくれ、自分も幸せになれる。」と法話をされました。参加者は、河原静嘉氏、出平俊治氏、住職の三名。

●禅をきく会

十一月二十六日、講演『自然と環境』講師、武田邦彦先生（中部大学特任教授）「水力（ダム）は、河川を駄目にした。風力は、風を止め、鳥が跳べなくなり、山に風があたりなくなつた。太陽光は、草木がなくなり虫達が住めなくなる。多くの人は目先の事に惑わされている。長い年月で地球環境を考えて欲しい」と科学的根拠から話されました。参加者は、福島鎮夫氏、河原静嘉氏、片山勇氏、

高柳泰雄氏、楽万真一氏、小福田茂利氏、住職の七名。

●婦人会清掃活動

清掃活動を中北上地区（六月十五日）、中北下地区（八月十七日）、坪井上地区（十二月二十一日）次の方に法要接客係をご奉仕頂きました。

『総供養』

國米貞子 様（多田）
國米由美子 様（三成）
『孟蘭盆大施食会』

奥由起枝 様（政友）

小福田由美子 様（原）

小福田佐知恵 様（安清）
ありがとうございました。

●家族が増えました

昨年十一月、縁あって一匹の犬が加わりました。禅（ぜん）といいます。皆様宜しくお願い致します。



平成二十七年 年回表

一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十五回忌	平成三年
二十七回忌	昭和六十四年、平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
三十七回忌	昭和五十四年
四十三回忌	昭和四十八年
四十七回忌	昭和四十四年
五十回忌	昭和四十一年
百回忌	大正五年

今があるのは、ご先祖様のお陰です。

覚 禅 会

● 九時～坐禅、行茶

● 十時～読経、写経

参加費無料。

坐禅と写経の二部制です。

一方の参加も可能です。

初めての方ご指導致します。

足の不自由な方の坐禅は、椅子に座り足を組まなくてもできます。

写経は、椅子と机がございます。道具もあります。

（使い慣れた道具があれば持参下さい）

檀家、年齢性別は問いません。

どなた様もお気軽にお越し下さい。

※団体の場合はご連絡下さい

（個別の日程は要相談）

※個人、団体、企業など出張で坐禅会・写経会を致します。

勝手ながら、急な日程変更もありますので事前にご確認頂ければ幸いです。

夜の坐禅会『夜坐』下記の日程で行っております。

ホームページ、フェイスブックでも予定を掲載しております。（三頁参照）

《覚禅会一月～六月の予定》
毎月 第二土曜日 開催

● 一月 十日（土）九時

● 二月 十四日（土）九時

● 三月 十四日（土）九時

● 四月 十一日（土）九時

● 五月 九日（土）九時

● 六月 十三日（土）九時

《覚禅会 夜坐》 夜の坐禅会

● 二月 十八日（水）十九時半

● 旧暦 大晦日

● 三月二十一日（土）十九時半

● 春彼岸会中日

● 四月 八日（水）十九時半

● 釈尊降誕会